



子ども虐待への対策と地域連携



DATA

- **主な連携先・メンバー**
堺市子ども青少年局子ども相談所／堺市子ども青少年局子ども家庭課／青少年希望の家「土井ホーム」代表 土井高德氏／浜松学院大学短期大学部幼児教育科准教授 志村浩二氏
- **活動地域**
関西大学堺キャンパス
- **活動期間**
2016年度～継続中
- **活動資金**
堺市と関西大学との地域連携事業

活動の目的

- 1 子ども虐待対策の啓発
- 2 子ども虐待と地域連携のあり方について、関係する専門家のこども相談に関する技術や知識の向上を図る

連携にいたる経緯

事業代表者の専門分野である子ども家庭福祉領域では、子ども虐待対策が課題となっており、堺市子ども相談所と連携してその対策を推進することとなった。

活動内容

子ども虐待への対策と地域連携のあり方について、堺市子ども青少年局子ども相談所と協議のうえ本課題に関するシンポジウムを開催することとなった。

2019年度は、堺市民、学校・児童相談所・保健センター等の関係者やスクールソーシャルワーカー・社会福祉士等を対象にシンポジウムを開催。第1回目は土井高德氏(青少年希望の家「土井ホーム」代表)を招き、発達障がい、非行、貧困、不登校等多くの困難を抱えた子ども達が自らの力で社会の中で生きていくための交渉術や、ものの考え方、とらえ方のスキルを子育ての中でどのように身に付けていくのかを講演いただいた。そのなかで地域の中で子どもの成長をどのように見守り育てていくことができるのか、支援者のあり方も含めて考察することができた。第2回目は志村浩二氏(浜松学院大学短期大学部幼児教育科准教授)を招き、児童相談所における児童福祉司および心理判定員や自治体での子育て支援の担当者としての経験を踏まえ、精神疾患を抱えた保護者との信頼関係の築き方、家族アセスメントの重要性について講演いただいた。ごみ屋敷・ネグレクト・アルコール依存症・DV・母子心中未遂といった精神疾患のある親の病理によって、子どもが受けるダメージをいかに防ぐことができるのか。精神疾患を抱えた保護者の理解とその支援のあり方について、子ども虐待に関わる専門職、地域のボランティア、関係者の理解を深めることができた。



活動の成果

一般市民などの非専門家にとって、子ども虐待を地域でいかに受け止め防止していくのかについて検討する素材を提供することができた

今後の課題・目標

- 1 子ども虐待への対策は、一朝一夕に形作られるものではないため、今回の講演会を起点として継続的な学習や啓発が今後の課題となる
- 2 一人でも多くの方に子ども虐待対策への関心を、講演を通じて持ってもらう

教員紹介



■ 人間健康学部 准教授

福田 公教
Kiminori Fukuda

専門は社会福祉学、子ども家庭福祉論。社会的養護の普及・啓発および社会的養護下にある子どもの自立支援のあり方について研究を進めている。妻とともに「くみくみホーム(養育里親)」をつとめている。



■ 人間健康学部 教授

山縣 文治
Fumiharu Yamagata

学生時代から子ども家庭福祉に関心をもち、教員になってからもその課題を追い続けている。